

"のどが渴きました。" ヨハネ 19.28

イエスは、三位一体の愛は心から最後まで、細部に至るまで従順であることを示しました。

それぞれの 十字架上のイエスの七つの言葉は実に素晴らしい。宇宙の創造の始まりとなったイエスの七つの言葉のように、受肉したイエスの最後の言葉は、アダムに始まる古い創造に終止符を打ち、新しい創造をもたらした。 イエスご自身を頭とする新しい創造...第二のアダム。一つ一つの言葉は、神の創造の言葉と同様に靈的な命にとっても重要です。言葉は物質的な命の基盤です。

三位一体の愛は、心から喜びと従順をもって従うということを私たちは見てきました。イエスの「わたしは渴く」という言葉は、純粋な愛が従順を成就させるのにどれほどの力を持つかを示しています。父と聖霊がヨハネに理解させ、示してくださいったように、ここにあなたの救い主の心を見出してください。そうすれば、あなたは主を、そしてあなた自身の従順を、二度と同じように見ることができなくなるでしょう。

ヨハネは、イエスの5番目の十字架の言葉を引用する前に、イエスの心と精神についての詳細な物語的洞察を私たちに与えてくれました。 「その後、イエスは、すべてのことがすでに完了し、聖書全体が成就したことを見り、『わたしは渴く』と言われた。」 ヨハネ19:28イエスは、私たちの罪のために苦しめた最期に、ご自身の渴きを表明されました。贖いの犠牲は完了し、すべての代価が支払われたのです。ヨハネはこう記しています。 「すべてのことがすでに完了したことを知りながら」

父を完全に愛するために、イエスは生涯を通じて父の聖書の戒めと暗黙の戒めに従わされました。それがイエスの喜びでした。今、イエスはその従順

さを究極まで高め、私たち一人ひとりが受けるべき罪の裁きを、最後まで耐え忍ばれました。十字架に関するすべての直接の戒めは成就しました。聖書の預言（30以上あります）はすべて、神の子羊の肉体と内なる存在において成就しました。イエスはあらゆる方法で「屠られ」ました。父への愛ゆえに、イエスはその苦しみのあらゆる側面に耐え忍ばれました。

イエスは今、最後の息を引き取るまであと一分と迫っていた。イエスは与えられるものをすべて捧げた。衣服は剥ぎ取られ、血、水、そして空気さえも吸い取られた。名誉、名声、威信、遺産、メッセージ、友、弟子、そして人々の称賛は、まるで髪の毛が引き抜かれたかのように、イエスから奪われた。

罪を知らない方が、私たちのために罪となられました。私たちは、イエスがこの純粋な従順を通して御父を愛するために払われた代価を、認識することさえできず、ましてや理解することさえできません。

あなたの愛情をすべて表現するには、いつが「十分」なのでしょうか？

イエスは既に十分に苦しまれました。贖罪は完了しました。イエスへの愛ゆえに、私はこう言いたくなるのです。「主よ、どうか。もう十分です。あなたはすべてを捧げられました！一刻も早く息を引き取り、この苦しみを永遠に忘れてください。主よ、どうか早くあなたの栄光の中にお入りください！」しかし、イエスはそんなことは全く考えていなかったのです。

ヨハネが聖霊の導きによって「すべては完了した」と言うことができるほどに、イエスは自分自身を完全に捧げた後でも、従順を通して父を愛することをまだ考え続けていたのです。

「父なる神をどれほど愛しているかを世に示すために、他に何かできることはないだろうか？」これがイエスの考えでした。そして、イエスはあることを思いつきました。

詩篇69篇21節でこう記しています。「彼らはわたしの食物に胆汁を入れ、わたしの渴きに酢を与えた。」ダビデはこの詩篇を、敵の手による不当な苦しみに対する嘆きとして書き記しました。21節では「胆汁」と「酢」を比喩的に表現しています。21節の後、ダビデは敵への報復を祈ります。「あなたの怒りを彼らに注ぎ、あなたの激しい憤りを彼らに臨ませてください...」（詩篇69:24）

イエスは詩篇69篇に出てくるダビデの不当な苦しみを、ご自身の受難の縮図としてご覧になりました。義人が不義な者のために受けた苦しみです。イエスはダビデよりもはるかに多くの苦しみと不当な虐待を罪人たちの手によって経験されました。イエスの苦しみとダビデの苦しみには、ある程度の共通点がありました。ダビデの苦しみにご自身の経験が反映されているのを見るイエスの謙虚さと共感は、なんと深いものだったのでしょう。（イエスは私たち自身の苦しみにも、同じように、想像を絶するほど慈しみ深く接してくださいます。）

しかし、イエスとダビデの対照にも注目してください。ダビデは父なる神の報いを祈りました。イエスは十字架上で絶えず祈りました。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているのか知らないのですから。」ルカ23:34イエスは私たちが受けるべき報いを受けられました。そして、比喩的な「胆汁」や「酢」ではなく、イエスはダビデの言葉を自らの文字通りの従順によって成就させる必要性を悟られたのです。

再び、イエスが聖書の定めをはるかに超える御業を成し遂げられたことが分かります。イエスは、ご自身の死を比喩的に描写するという極端な方法を用いることで、父なる神への深い愛を世に示すと捉えられました。そこでイエスは、死の最も知られざる、些細な出来事を通して、従順という酢を飲みながらこの世を去ることができる言葉を語られました。その一杯は、父なる神への最後の愛の乾杯でした。

私たちは従順を避けたり、できるだけ制限したりする方法を探します。イエスは、たとえ従順であっても、従順を通して愛を表現する方法を探しました。ヨハネ19:28に記されている状況では、贖罪は必要とされておらず、すでに完了していました。

イエスが父をどれほど愛していたか分かりますか？

イエスがあなたにワインビネガーを一口飲むことで見てもらいたいのは愛です。